

## 平成二十二年度入学式式辞

只今、入学を許可いたしました一八六名の皆さん、御入学おめでとうございます。  
皆さんの入学を、本校教職員一同、心から祝福し、歓迎いたします。

本校は、昭和十四年に創設され、七十年を超える歴史と伝統のある工業高校です。

戦後、わが国は『ものづくり立国』として製造業を中心に、世界に類例のない経済発展を遂げました。本校においても、創立以来、ものづくりに携わる人材育成に取り組み、地元のみならず全国の産業界を担う有為な人材を多数育成してまいりました。校訓は「真理を究め、責任を重んじ、自治を愛し、勤労を尊び、剛健の気を養う」であり、本校の教育理念となっています。

さて、これからはじまる高校生活に際し、皆さんに何点かお話ししておきたいことがあります。

まず、自分の夢を持ち、その実現に向けた努力をしてほしいということです。

昨日の新聞には、その第一面に日本人宇宙飛行士の山崎直子さんの記事が載っておりました。その見出しには「山崎さん、待って一一年」となっていました。彼女は一一年前に宇宙飛行士の候補に選ばれたのですが、二〇〇三年におこったスペースシャトル・コロンビアの爆発事故で打ち上げが滞り、いつ宇宙に行けるのか見通しの立たない時期が長く続いたのです。見えないゴールに向け厳しい訓練を続ける彼女を支えたのは、家族の理解でした。たった一回の宇宙飛行のために一一年もの歳月を費やして努力し、そして、ついに夢を叶えたのです。彼女の笑顔のすばらしさをテレビで見た人も多いのではないのでしょうか。若い皆さんが山崎さんのように輝く明日に出会えるため、ぜひ、夢を持ち、実現に向けた努力をしてください。

つぎに、いつも謙虚さを忘れないでほしいと思います。

人は何かに成功したり成果を上げたりしたとき、うれしさの余り、あたかも自分が優れた人間になったように錯覚することがあります。そのような態度は、本当の成功者のものではありません。そのことで物事の本質を見失うばかりか、思い上がった気持ちが周りを不愉快にさせてしまうこともあります。そしてそれはとても恥ずかしいことです。古いギリシアの哲学者ソクラテスも「無知の知」（自分が知らないということを知ること）の大切さを説いています。皆さんには、成長すればするほど、より謙虚になる姿勢を身につけてほしいと思います。

また、高校は一人の人間として自立するための準備をする場です。「自立する」とは、わかりやすく言えば、「精神的に、また、経済的に一人立ちする」ことです。自立するためには、「自分のなすべきことに真剣に取り組み、自分に向けられた言葉に耳を傾け、周りの人の生き方を見ながら、そして自分の生き方を見つけ、行動すること」が必要です。

具体的には、

- 1 勉強には全力で取り組む。
- 2 部活動で自分を鍛え、友達をつくる。
- 3 本や新聞を読んだりニュースを見たりして、社会への見識を広げる。

これらのことを忘れず、三年間を過ごしてください。

本校は、専門教育を充実したものとするため、施設や設備が非常によく整備されおり、様々な体験的な学習ができます。また、将来の進路を切り開く資格を取得したり、地域の企業にご支援いただきながら職場体験学習などの取り組みを行っており、将来に向けて職業観や勤労観を深めることができます。さらには、部活動が大変盛んで、どの部にも先輩たちの築いた輝かしい歴史と伝統があります。皆さんには、ぜひどれかの部に入部し、競技力だけでなく、精神力や協調性などを高めたいと思います。皆さんの指導には本校の全教職員が力を合わせて当たる所存ですので、どうぞ、よろしくお願ひします。

さて、保護者の皆様には、本日はお子様の御入学、おめでとうございます。これまでさまざまな御心配や御苦勞もあったかと思ひます。

私ども教職員は、一人一人のお子様が発達した高校生活を過ごされ、確かな知識や技術を身につけられるとともに、豊かな人間性を持った心身ともにたくましい若者に成長されるよう願っております。そのことを実現させるために、学校を挙げて努力してまいりますが、一方で、保護者の皆様の御理解と御協力が欠かせません。お子様の将来が豊かで幸せなものとするために、家庭と学校の双方がその役割をきちんと認識しながら、互いの考えを理解し、連携して歩んでいきたいと思ひますので、御協力を重ねてお願いいたします。

終わりに、すべての新入生の皆さんの高校生活が実り多いものになることを祈り、私の式辞といたします。

平成二十二年四月七日

鳥取県立鳥取工業高等学校  
校長 山内有明